

平成26年度 社会科教育にかかわる現状と課題

部長 有田 一正

1 社会科教育の動向

【上越地区】

上越地区では、上越市、妙高市、糸魚川市それぞれで市単位の授業研修会が実施された。上越市では、中学校を会場に小・中学校間の授業研修が行われた。「わかる授業」をテーマにUDLの視点についても話し合いが行われた。糸魚川市では、「実感に支えられ、自ら学ぶ社会科教育」をテーマに授業が行われ、NIEの講演も実施された。妙高市では「地域に根差した授業改善」をテーマに地域巡検や講演も実施された。

【中越地区】

中越地区では、地域教材研修や教材づくりを積極的に行っている。長岡市三島郡では、地域巡検と共に社会科授業で「福島江の開発」が取り上げられた。また、三条市の「農と食」のミニ講座や十日町市中魚沼郡の「苗場山麓ジオパーク」の講演会など中越の各市で地域を学ぶ講演会が行われてきた。魚沼市で中学校教師による小学校での授業公開が行われるなど、中学校との授業公開や授業交流も進められている。

【下越地区】

下越地区では、地域巡検・講演会等により教師が地域を知り、地域素材を教材化し、社会科授業に生かせるように努めている。村上市では、副読本「森とわたしたちの暮らし」を使った授業づくりが提案された。佐渡市では世界遺産登録を目指す佐渡金山遺跡の巡検を実施し、市内の授業力向上を目指している。新発田市や胎内市では、資料活用と共に社会的な思考力の向上を目指した授業研修が行われた。

【新潟地区】

新潟市では、「児童の考えを深める話し合いの組織」について、市の指導計画に基づき市内4つの地区に分かれた授業研修が行われた。児童の考えのズレが生まれる資料提示や、児童の「～のはずなのに、なぜか」と疑問から生まれる課題づくりと考えを深める話し合いを生かした授業研修が行われてきた。

2 社会科教育の課題

- 社会科の学力向上を図るため、地図や統計などの資料から必要な情報を読み取り、社会的事象の意味を解釈し事象の関連を説明するなど言語活動を充実して、授業を改善する。
- 子どもが意欲的に追究したくなる授業を目指すため、地域素材を活用した教材開発に努め、その有効な提示方法を研究する。
- 小・中学校の校種間連携を図り、一貫した指導計画や授業づくりを行う。